

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許番号

特許第3454788号
(P3454788)

(45) 発行日 平成15年10月6日 (2003. 10. 6)

(24) 登録日 平成15年7月25日 (2003. 7. 25)

(51) Int. Cl.

識別記号

P I

H 0 4 L 12/56
12/66H 0 4 L 12/56
12/66H
E

請求項の数 6 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-380338(P2000-380338)
(22) 出願日 平成12年12月14日 (2000. 12. 14)
(65) 公開番号 特開2002-185538(P2002-185538A)
(43) 公開日 平成14年6月28日 (2002. 6. 28)
審査請求日 平成12年12月14日 (2000. 12. 14)

(73) 特許権者 000004228
日本電信電話株式会社
東京都千代田区大手町二丁目3番1号
(72) 発明者 早瀬 千鶴
東京都千代田区大手町二丁目3番1号
日本電信電話株式会社内
(72) 発明者 首藤 晃一
東京都千代田区大手町二丁目3番1号
日本電信電話株式会社内
(74) 代理人 100058479
弁理士 鈴木 武彦 (外2名)

審査官 江崎 清仁

(56) 参考文献 特開 平2-135338 (J P, A)
特開 平8-331243 (J P, A)
特開 平2-190092 (J P, A)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 閉域網間接続切り替え方式

1

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】 1つ以上の閉域網を持つ複数の閉域網群と、

一方の閉域網群の閉域網と他方の閉域網群の閉域網を接続・切断する閉域網接続装置と、
閉域網または閉域網ユーザからの接続要求を基に、接続可否を判定し、接続可能な場合は、前記閉域網接続装置を制御して、所定の閉域網に接続し、閉域網または閉域網ユーザからの切断要求を基に、切断可否を判定し、切断可能な場合は、前記閉域網接続装置を制御して、閉域網間接続を切断する閉域網群制御サーバとを具備することを特徴とする閉域網間接続切り替え方式。

【請求項2】 請求項1記載の閉域網間接続切り替え方式において、接続や切断が閉域網または閉域網ユーザの要求に応じ、一方の閉域網群の閉域網と他方の閉域網群

2

の閉域網の対応を動的に切り替えて行えることを特徴とする閉域網間接続切り替え方式。

【請求項3】 請求項1または2記載の閉域網間接続切り替え方式において、複数の閉域網あるいは閉域網群と閉域網接続装置を1つの装置に収容することを特徴とする閉域網間接続切り替え方式。

【請求項4】 請求項1、2または3記載の閉域網間接続切り替え方式において、一方の閉域網群がセッション接続型アクセスサーバであり、他方の閉域網群がバックボーンであることを特徴とする閉域網間接続切り替え方式。

【請求項5】 請求項4記載の閉域網間接続切り替え方式において、閉域網群制御サーバに、セッション接続型アクセスサーバ内の各閉域網の接続中セッション数をカウントする手段を備えることによって、閉域網間接続

(2)

特許3454788

3

の、接続・切断の契機を閉域網群制御サーバが自動的に判断することを特徴とする閉域網間接続切り替え方式。

【請求項6】 請求項5記載の閉域網間接続切り替え方式において、セッション接続型アクセスサーバ内の各閉域網の接続中セッション数をカウントする手段として、接続セッションを待つバックボーン内の閉域網と、セッション接続型アクセスサーバ内の閉域網の対応と、接続中セッション数を記録する管理表を、閉域網群制御サーバに備えることを特徴とする閉域網間接続切り替え方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、データをパケット化して伝送するコンピュータ通信において、複数の閉域網を構成することが可能な、パケット網に関するものであり、このようなパケット網が複数ある場合に、それぞれのパケット網に存在する、閉域網同士を接続する閉域網間接続切り替え方式に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 近年、IP (Internet Protocol) 等のパケット通信方式にて、閉域網を構成し、低コスト化しつつ、通信の秘匿性などのセキュリティ等の企業内・間通信で必要とされる、通信品質を保證する仮想閉域網技術が注目されている。複数の通信事業者間で、それぞれの閉域網（群）を相互接続する場合、事前に固定的に閉域網同士を相互接続することが行われている。また、ダイヤルアップやxDSL等のアクセス手段を用いた、パケット通信ホストを収容する、アクセスサーバ（NAS: Network Access Server）で、装置内に複数の閉域網を収容可能なものを設置し、バックボーンに存在する閉域網とアクセスサーバ内に存在する閉域網を相互接続して、複数の閉域網間で共用可能なアクセスサーバでリモートアクセスサービスを提供することがある。

【0003】 従来技術例として、この閉域網を収容可能なアクセスサーバを用いた実現例の構成を図4に示す。

【0004】 図4中、11はアクセスユーザ（PC）、12はPOTSやISDNやxDSL等のアクセス網（Access）、13はアクセスサーバ（NAS）、14はアクセスサーバ内の閉域網（VPN#1～4）、15はアクセスサーバ内の制御部（C）、16は閉域網群制御サーバ（AAS）、17はバックボーン（BBN）、18はバックボーン内の閉域網（VPN#a～d）、19はバックボーン内の制御部（C）を示す。

【0005】 図5に沿って、接続・切断のシーケンスを説明する。

【0006】 アクセスユーザ11は接続を開始する場合、バックボーン17内の閉域網18とデータを送受信する前に、アクセスサーバ13との間で、PPP (Point-to-Point Protocol) などに

4

より、セッションを確立する。この際に、アクセスユーザ11は、ユーザ識別子・閉域網識別子・パスワード等で構成される認証要求をアクセスサーバ13経由で閉域網群制御サーバ16へ送信する。閉域網群制御サーバ16は認証情報をもとに、認証処理を行う。

【0007】 接続を許可しない場合は、閉域網群制御サーバ16がアクセスサーバ13経由でアクセスユーザ11へ認証拒否応答を返し、このセッションの確立は失敗（接続失敗）する。

10 【0008】 接続を許可する場合は、閉域網群制御サーバ16がバックボーン17へ、このセッションに関する新規経路情報を設定し、さらにバックボーン17から閉域網群制御サーバ16への設定応答により、閉域網群制御サーバ16はアクセスサーバ13経由でアクセスユーザ11へ認証受理応答を返す。この認証受理応答の中には、閉域網識別子とアクセスユーザ11が用いるアドレスなどの情報が含まれる。結果として、アクセスユーザ11からアクセスサーバ13内及びバックボーン17内閉域網14、18への通信が可能となり、通信を開始する。

20 【0009】 アクセスユーザ11が切断を開始すると、アクセスサーバ13経由で閉域網群制御サーバ16へ切断要求が送信される。閉域網群制御サーバ16は、バックボーン内閉域網18に設定された、このセッション用の経路情報を削除し、バックボーン17から閉域網群制御サーバ16への削除応答により、閉域網群制御サーバ16は切断応答をアクセスサーバ13経由でアクセスユーザ11へ返却する。アクセスサーバ13はアクセスサーバ内閉域網14から、このセッションに関する情報を削除する。結果として、このセッションの切断が完了する。

30 【0010】 このシステムでは、アクセスサーバ13とバックボーン17内部の閉域網14、18を固定的に対応づけて接続しておくことで、バックボーン17へのダイレクトなアクセス手段を持たないアクセスユーザ11が、アクセスサーバ13経由でバックボーン内閉域網18と通信することが可能となる。しかし、この閉域網14と18同士の対応関係が固定的なため、バックボーン17内部と同数の、あるいは、アクセスサーバ13経由で接続を許可するバックボーン17内閉域網数と同数の、閉域網をアクセスサーバ13内部に設けておくことが必要となる。

【0011】

40 【発明が解決しようとする課題】 前記のように、アクセスサーバ13内の閉域網とバックボーン17内の閉域網が、固定的に接続されていると、それぞれの内部閉域網数を合わせることが必要となる。あるいは、アクセスサーバ13経由で接続を許可するバックボーン17内閉域網数と同数の、閉域網をアクセスサーバ13内部に設けておくことが必要となる。例えば、アクセスサーバ13

(3)

特許3454788

5

内部に待てる閉域網数がバックボーン17内部に待てる閉域網数より少ない場合、アクセスサーバ13とバックボーン17間で、同時にセッションを確立する閉域網数が少なく、アクセスサーバを必要以上に設置しなければならないという問題があった。

【0012】本発明は上記の事情に鑑みてなされたもので、アクセスサーバ内閉域網とバックボーン内閉域網の対応を動的に切り替える（アクセスサーバ内閉域網とバックボーン内閉域網の対応関係を変えることを可能にする）ことにより、閉域網同士の接続を効率良く行うことができる閉域網間接続切り替え方式を提供することを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために本発明の閉域網間接続切り替え方式は、1つ以上の閉域網を待つ複数の閉域網群と、一方の閉域網群の閉域網と他方の閉域網群の閉域網を接続・切断する閉域網接続装置と、閉域網または閉域網ユーザからの接続要求を基に、接続可否を判定し、接続可能な場合は、前記閉域網接続装置を制御して、所定の閉域網に接続し、閉域網または閉域網ユーザからの切断要求を基に、切断可否を判定し、切断可能な場合は、前記閉域網接続装置を制御して、閉域網間接続を切断する閉域網群制御サーバとを具備することを特徴とするものである。

【0014】また本発明は、前記閉域網間接続切り替え方式において、接続や切断が閉域網または閉域網ユーザの要求に応じ、一方の閉域網群の閉域網と他方の閉域網群の閉域網の対応を動的に切り替えて行えることを特徴とするものである。

【0015】また本発明は、前記閉域網間接続切り替え方式において、複数の閉域網あるいは閉域網群を1つの装置に収容することを特徴とするものである。

【0016】また本発明は、前記閉域網間接続切り替え方式において、一方の閉域網群がダイヤルアップやxDSL等のセッション接続型アクセスサーバであり、他方の閉域網群がバックボーンであることを特徴とするものである。

【0017】また本発明は、前記閉域網間接続切り替え方式において、閉域網群制御サーバに、セッション接続型アクセスサーバ内の各閉域網の接続中セッション数をカウントする手段を備えることによって、閉域網間接続の、接続・切断の契機を閉域網群制御サーバが自動的に判断することを特徴とするものである。

【0018】また本発明は、前記閉域網間接続切り替え方式において、セッション接続型アクセスサーバ内の各閉域網の接続中セッション数をカウントする手段として、接続セッションを持つバックボーン内の閉域網と、セッション接続型アクセスサーバ内の閉域網の対応と、接続中セッション数を記録する管理表を、閉域網群制御サーバに備えることを特徴とするものである。

6

【0019】本発明は、閉域網群制御サーバと閉域網接続装置を設けて、閉域網の相互接続を動的に行うことが可能となる点と、各閉域網群内の閉域網同士の接続は動的に行われるため、それぞれの閉域網数は同一となる必要がない点と、片方の閉域網群がアクセスサーバ内に収容される場合に、閉域網群制御サーバでセッション数をカウントしておくことで、自動的に閉域網群制御サーバが判断して閉域網間相互接続の確立・切断を行うことができるという点が、従来の技術とは異なる。

【0020】

【発明の実施の形態】以下図面を参照して本発明の実施形態例を詳細に説明する。

【0021】（第1の実施形態例）図1は本発明による実施形態例のシステム構成を示すもので、図中、11はアクセスユーザ（PC）、12はPOTSやISDNやxDSL等のアクセス網（Access）、13はアクセスサーバ（NAS）、14はアクセスサーバ内の閉域網（VPN#1～4）、15はアクセスサーバ内の制御部（C）、16は閉域網群制御サーバ（AAS）、17はバックボーン（BBN）、18はバックボーン内の閉域網（VPN#a～d）、19はバックボーン内の制御部（C）、31は閉域網接続装置（SW）、32は閉域網接続装置内の制御部（C）を示す。また、図2は、本発明の実施形態例において、下記に示すように、閉域網群制御サーバ16がアクセスサーバ13内とバックボーン17内の閉域網14、18の相互接続関係と、存在する接続セッション数をカウントするために用いる、管理表を示す。

【0022】図3に沿って、接続・切断のシーケンスを説明する。

【0023】アクセスユーザ11は接続を開始する場合、バックボーン17内の閉域網18とデータを送受信する前に、アクセスサーバ13との間で、PPPなどにより、セッションを確立する。この際に、アクセスユーザ11は、ユーザ識別子・閉域網識別子・パスワード等で構成される認証要求をアクセスサーバ13経由で閉域網群制御サーバ16へ送信する。閉域網群制御サーバ16は認証情報をもとに、認証処理を行う。

【0024】接続を許可しない場合は、閉域網群制御サーバ16がアクセスサーバ13経由でアクセスユーザ11へ認証拒否応答を返し、このセッションの確立は失敗（接続失敗）する。

【0025】接続を許可する場合は、接続を許可するバックボーン内閉域網18が、既に閉域網群制御サーバ16の図2に示すような管理表に登録されているかどうか調べる。もし存在した場合には、管理表中の該当閉域網への接続セッション数を増加させる。もし存在しなかった場合には閉域網群制御サーバ16は、管理表に該当閉域網のエントリを追加し、閉域網接続装置31へアクセスサーバ内閉域網14とバックボーン内閉域網18を相

(4)

特許3454788

7

互接続する設定を行い、閉域網接続装置31は閉域網群制御サーバ16へ設定応答を返す。

【0026】この後、閉域網群制御サーバ16がバックボーン17へ、このセッションに関する新規経路情報を設定し、バックボーン17から閉域網群制御サーバ16へ設定応答があると、閉域網群制御サーバ16はアクセスサーバ13経由でアクセスユーザ11へ認証受理応答を返す。この認証受理応答の中には、閉域網識別子とアクセスユーザ11が用いるアドレスなどの情報が含まれる。結果として、アクセスユーザ11からアクセスサーバ13内及びバックボーン17内閉域網14、18への通信が可能となり、通信を開始する。

【0027】アクセスユーザ11が切断を開始すると、アクセスサーバ13経由で閉域網群制御サーバ16へ切断要求が送信される。閉域網群制御サーバ16は、このセッションが該当バックボーン17の閉域網18へ接続する最終セッションであるか、すなわち、このセッションを切断してしまうと、該当閉域網18へ接続するセッションが無くなってしまいかどうかを、図2に示すような管理表を用いて計算し、チェックする。もし、最終セッションである場合には、閉域網群制御サーバ16は管理表から該当閉域網18のエントリを削除し、閉域網接続装置31へ設定した、アクセスサーバ内閉域網14とバックボーン内閉域網18間の相互接続を切断し、閉域網接続装置31から閉域網群制御サーバ16へ切断応答が返される。

【0028】この後、閉域網群制御サーバ16はバックボーン内閉域網18に設定された、このセッション用の経路情報を削除し、バックボーン17から閉域網群制御サーバ16へ削除応答が返される。閉域網群制御サーバ16は切断応答をアクセスサーバ13経由でアクセスユーザ11へ返却する。アクセスサーバ13はアクセスサーバ内閉域網14から、このセッションに関する情報を削除する。結果として、このセッションの切断が完了する。

【0029】これにより、各閉域網への接続セッション数をカウントし、ある閉域網への最初の接続セッションを確立するときには、アクセスサーバ13とバックボーン17の閉域網を相互接続し、ある閉域網への最後の接続セッションを切断するときには、アクセスサーバ13とバックボーン17の閉域網間の接続を開放するというように、セッションの接続と切断を契機として、自動的に接続を切り替えることにより、アクセスサーバ13とバックボーン17の閉域網を効率的に利用することが可能となる。

【0030】なお、本発明の実施形態例では、アクセスサーバ13、閉域網群制御サーバ16、閉域網接続装置31、バックボーン17が別装置として説明を行った

8

が、これらの一部が同一装置内で実現してあっても、一般性を失わずに実施することが可能である。例えば、バックボーンとアクセスサーバがATM等の仮想回線(Virtual connection)を利用できる技術を用いている場合には、アクセスサーバまたはバックボーン(あるいは両方の)、入出力VC番号情報を設定変更することで、本発明の実施形態例で必要な閉域網接続装置機能を実現することが可能である。

【0031】

10 【発明の効果】以上述べたように本発明によれば、閉域網の相互接続を動的に行う(閉域網の相互接続の対応関係を変える)ことが可能となる。不必要な装置の増設を行うことなく、閉域網数の異なる閉域網群を相互接続することが可能となる。特に、アクセスサーバ内閉域網とバックボーン内閉域網との間の接続に関しては、各閉域網への接続セッション数をカウントし、ある閉域網への最初の接続セッションを確立するときには、アクセスサーバとバックボーンの閉域網を相互接続し、ある閉域網への最後の接続セッションを切断するときには、アクセスサーバとバックボーンの閉域網間の接続を開放するとい

20 うように、セッションの接続と切断を契機として、自動的に接続を切り替えることにより、アクセスサーバとバックボーンの閉域網を効率的に利用することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態例を示す構成説明図である。

【図2】本発明の実施形態例における接続・切断動作を示すシーケンス図である。

30 【図3】本発明の実施形態例における管理表を示す説明図である。

【図4】従来の閉域網間接続切り替え方式を示す構成説明図である。

【図5】図4における接続・切断動作を示すシーケンス図である。

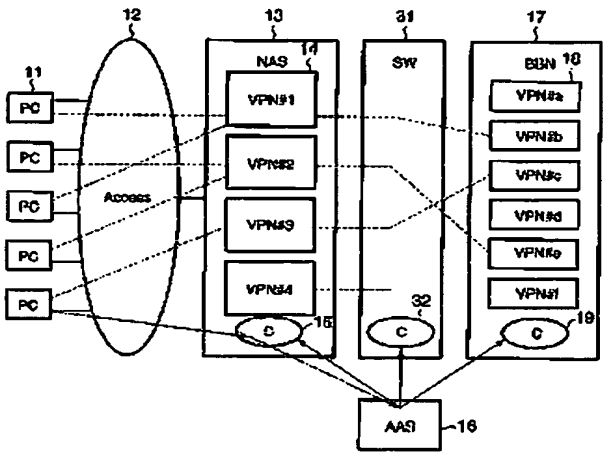
【符号の説明】

- 11 アクセスユーザ(PC)
- 12 POTSやISDNやxDSL等のアクセス網(Access)
- 13 アクセスサーバ(NAS)
- 14 アクセスサーバ内の閉域網(VPN#1~4)
- 15 アクセスサーバ内の制御部(C)
- 16 閉域網群制御サーバ(AAS)
- 17 バックボーン(BBN)
- 18 バックボーン内の閉域網(VPN#a~d)
- 19 バックボーン内の制御部(C)
- 31 閉域網接続装置(SW)
- 32 閉域網接続装置内の制御部(C)

(5)

特許3454788

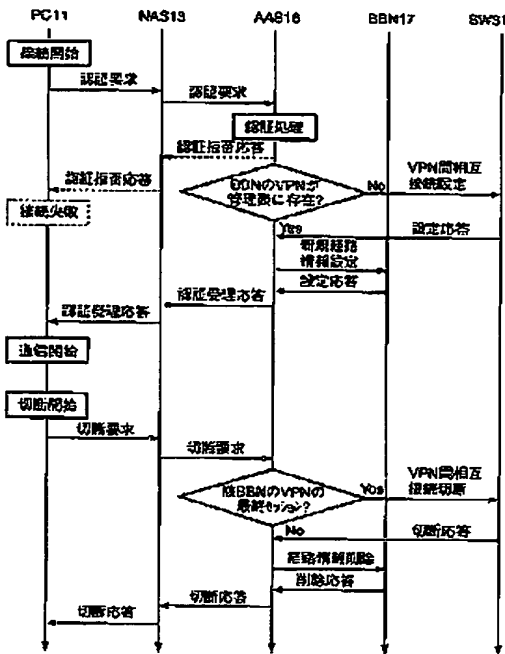
【図1】



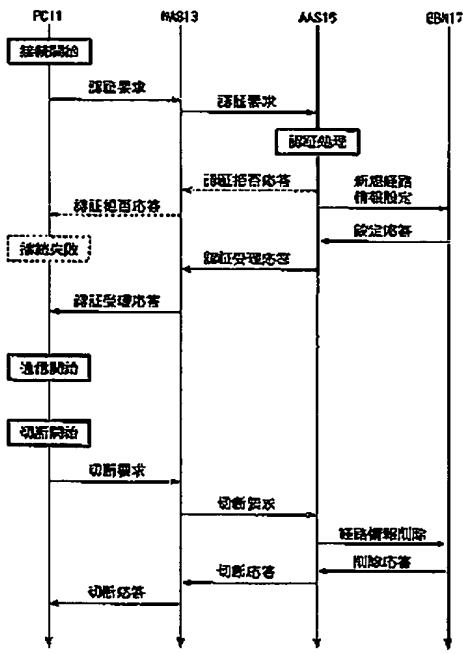
【図3】

アクセスサーバ	バックボーン	セッション数
#1	#b	2
#2	#c	2
#3	#c	1
#4	—	0

【図2】



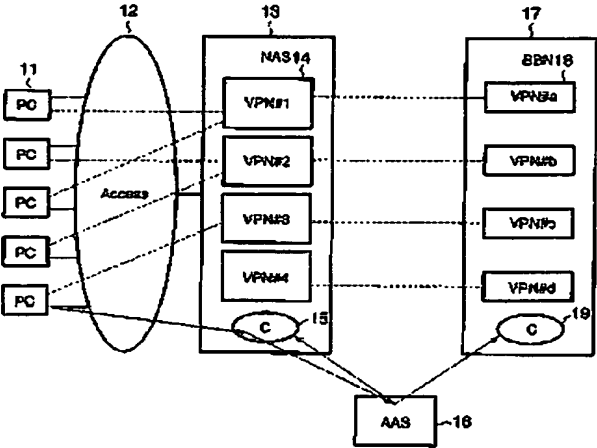
【図5】



(5)

特許3454788

【図4】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

H04L 12/00
H04Q 3/00